

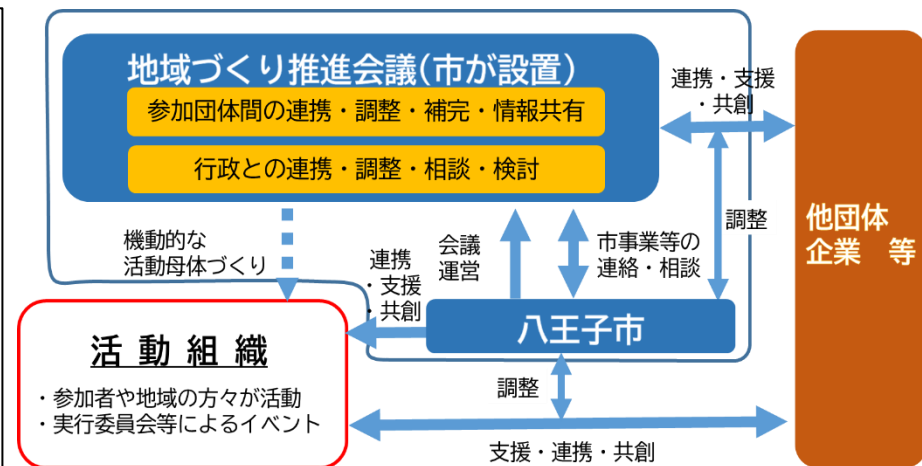
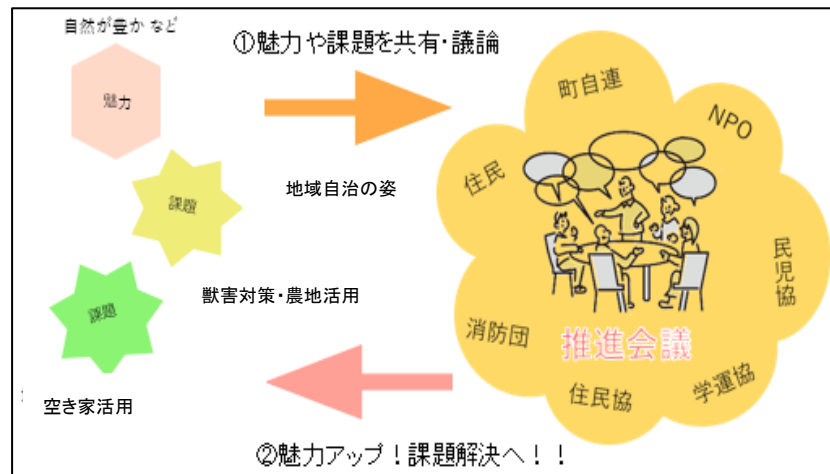
地域づくり推進事業に関する取組状況について

1 推進会議設置地区における取組

令和5年（2023年）8月22日の総務企画委員会で報告した地域づくり推進事業の課題を踏まえ、地域づくり推進会議（以下「推進会議」という。）において議論を重ね、取組を進めている。

- 中学校区ごとの地域自治の姿を検討
- 推進会議のあり方を整理
- 地域の課題をテーマに分けて話し合い共有
- 地域づくり推進計画（以下「推進計画」という。）に基づく取組がより進めやすくなるよう団体の設立を準備 など

また、令和5年（2023年）8月20日に開催した「地域づくりフォーラム in 八王子」では、ポスターセッションを通して地域で活躍する様々な団体との連携を進めたところである。



(1) 長房中学校区
推進計画に基づいた取組

ア 地域情報の発信力強化

地域づくりの取組を一人でも多くの方々に知っていただくことが重要と考え、Instagram や、地域内にあるコピー長房の掲示板やモニターを活用して、地域づくりの取組を発信している。

イ 地域の支え合い醸成

地元企業（株式会社スーパーアルプス、有限会社バーゼル洋菓子店）に御協力をいただき、コピー長房にて多世代交流を生み出すとともに 地域の食の困りごとを解決するため「みんなの食堂」を開催（6月、12月）している。

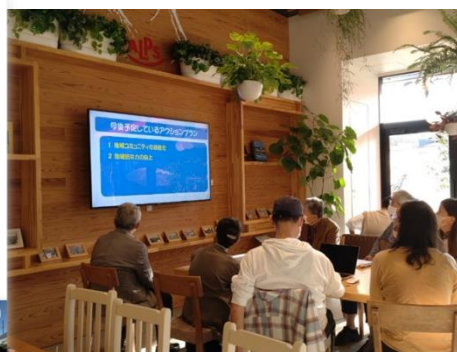
ウ 地域住民の交流の活発化

新たな地域のつながりが生まれるよう地域の団体（自治会・サロン・大学等）や地元企業（株式会社スーパーアルプス、有限会社バーゼル洋菓子店、株式会社カインズ）とともに、22の協力団体の一員として、はちやめちやハロウィン大冒険実行委員会が開催（10月28日）した「はちやめちやハロウィン大冒険」イベントに協力した。

「ハロウィンイベント」の様子



Instagram



コピー長房のコミュニティスペース



「みんなの食堂」の様子



(2) 川口中学校区
推進計画に基づいた取組

ア 地域防災部会の取組

地域住民の方々の手で、生活道路や用水路など地域の実情も捉えた独自の中学校区版ハザードマップを作り、地域の安心安全な暮らしにつなげていこうという活動を進めている。

現在、地域住民の方々がハザードマップについて勉強する機会を作りながら、実際に地域を見回って危険な箇所を確認しており、令和6年（2024年）3月23日（土）には、地域の団体と連携し、防災訓練の実施を予定している。

イ マルシェ部会の取組

新たな地域のつながりが生まれるようマルシェを開催し、地元企業（株式会社スーパーアルプス）に御協力をいただき、コピオ榎原を中心に定期的にマルシェを開催している。マルシェには、地域の農家や飲食店、雑貨店などが出店し、多くの方々がつどい、つながることができる場をつくり出している。



コピオ榎原にて



ウ その他の取組・検討

川口中学校区では、推進計画にあるアクションプランに掲載した取組だけでなく、推進計画策定にあたり整理した地域の魅力・課題等をもとに、意見交換をしながら様々な取組等の検討を進めている。

例：町会・自治会の課題や将来のあり方、空き家の利活用、獣害対策 等

(3) みなみ野中学校区 推進計画の策定

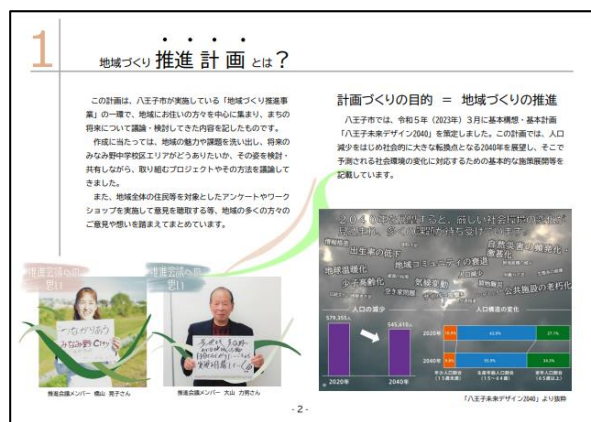
推進会議の議論だけでなく、地域住民へのアンケートや親子ふれあい広場での乳幼児の保護者インタビューなど、地域づくり推進会議参加者（以下「参加者」という。）が自ら地域の声を集めた。また、令和5年（2023年）7月8日には推進計画の中間とりまとめを行い、その内容について地域の皆様から意見を伺う「地域ワークショップ」を開催し、令和5年（2023年）12月に「地域づくり推進計画」を策定した。

地域の皆様が「みなみ野中学校区地域づくり推進計画」をより身近に感じ、愛着を持っていただけるよう、参加者の思いやインタビューを写真とともに掲載している。計画の冊子をA4横版にしたことについても参加者の意見を反映したものである。

地域づくり推進計画 将来ビジョン〈集まり、つながり、風の生まれるまち ～人、自然を豊かに愉しむ 八王子みなみ野～〉



表紙



参加者の思い



インタビュー

(4) 南大沢中学校区 推進計画の策定

推進会議では将来の南大沢中学校区エリアがどうあるべきか、地域住民を対象としたアンケートを実施するなど、地域の魅力や課題を洗い出しながらその姿を検討・共有し、推進計画の中間とりまとめを行った。令和5年（2023年）7月30日には、「地域ワークショップ」を開催し、地域の方々のご意見や思いを踏まえ、令和5年（2023年）12月に「地域づくり推進計画」を策定した。

地域の皆様が「南大沢中学校区地域づくり推進計画」をより身近に感じ、愛着を持っていただけるよう、参加者による座談会を開催し、地域の町会のことや、子どもの居場所づくりなど率直に話した内容を記事にして掲載している。また、推進計画の表紙等は参加者が相談しながらデザインしており、計画づくりを通じて参加者のつながりを強めている。

地域づくり推進計画 将来ビジョン 〈つづく つながる〉



表紙



座談会



参加者の思い



2 市の取組及び先進自治体への視察報告

(1) 推進会議における取組

ア 中学校区ごとの地域自治の姿の検討（長房・川口・みなみ野・南大沢）

「八王子未来デザイン 2040」において未来を拓く原動力として掲げている『地域自治』の推進について、各推進会議で参加者が考え、イメージする“地域自治の将来像”をグループワークなどにより検討しながら、自分たちが進める地域づくりへの理解を深めている。

イ 地域の課題を話し合う機会の設定（長房・川口）

推進会議では、地域の魅力や課題を検討しながら「地域カルテ」と「推進計画」の策定を進めてきたが、策定することが目的化している現状もある。推進計画に掲載のあるアクションプランの内容を振り返りながら、推進計画に掲載できていない地域の課題や身近な困りごとも、あらためて話し合う機会を設定し、様々な分野の参加者が地域のことを話し合いながらつながるプラットフォームとなるよう活動を進めている。

ウ 企業との連携（長房・川口）

株式会社スーパーアルプス、有限会社バーゼル洋菓子店などに協力を得てイベントを開催している。また、推進会議参加者として、地域で開催される企業などとの定期的な打合せに出席するなど、地域内での連携も生まれている。

エ 参加者へのアンケート（長房・川口・みなみ野・南大沢）

これまでの取組内容や会議運営方法などについて、参加者にアンケートを実施した。

(2)「八王子市地域づくり推進基本方針」の改定

ア 目的

これまで、令和2年（2020年）3月に策定した「八王子市地域づくり推進基本方針」に基づき、地域づくり推進事業を進めてきた。令和5年度（2023年度）から「八王子未来デザイン2040」がスタートし、未来を拓く原動力として掲げる『地域自治』の推進に向けた地域づくりの基本的な考え方や取組方法をまとめる。また、既に推進会議を設置している4中学校区での取組や先進自治体の事例も参考にして、地域づくりのさらなる推進につなげるため「八王子市地域づくり推進基本方針」を改定する。

イ 改定時期

令和7年（2025年）3月末（予定）

ウ 実施体制

(ア)庁内検討会

総合経営部、市民活動推進部、福祉部、都市計画部、学校教育部の部課長による庁内議論を行い、基本方針の改定に反映

(イ)懇談会

学識経験者や推進会議代表者などを交えた懇談会を設置し、意見を聴取
※別紙1「八王子市地域づくり推進基本方針改定懇談会 参加者名簿」参照

エ 懇談会開催状況

- 第1回 令和5年（2023年）7月27日
- 第2回 令和5年（2023年）10月27日
- 第3回 令和6年（2024年）1月22日

オ これまでの主な意見

(ア)地域づくりについて

- a 地域自治とは何か、推進会議をどうしていくかを考えたときに、地域課題の解決から行政課題の解決につなげるという意図だと思うが、地域課題から入るのが本当に良いのか疑問を感じる。課題解決という目的ではなく、楽しいことから入り、いかに様々な年齢層にアピールし、地域の厚みをつくっていくかが重要だと思う。

- b 素晴らしい個々の取り組みはすでに地域に存在するので、情報共有の場が必要だと感じる。
- c 地域づくりの目的を明らかにしてほしい。
- d 基本方針の冒頭で、地域づくりの必要性を記載するのは大事なこと。

(イ) 推進会議について

- e 推進会議の役割として、行政が新しい施策を実行する際、この地域ではどのような形で運用するのが良いか、行政がヒアリングできる接点として機能するのが現実的かと思う。また、どれだけ課題の解決に取り組めるかも地域によって差があるため、地域ごとに強弱があってよい。
- f 緩さと楽しさは大切。また、何かをやるという目的の陰で、実はみんなが同じ場所にいること自体に意味がある。このような考え方や見せ方は響くのでは。
- g あまり目的を意識しないことも重要。「地域課題」といっても、地域全体で話し合わないといけないことばかりでなく、個別のつながりのなかで対応できることもある。そういう場を徐々に広げていくことが大切。
- h 地域づくりの単位をどうするかというのは非常に難しい。もっとおおらかに取組ごとに柔軟に区分けが変更できるように、モデル地区だからこそ検証すべき。
- i マルシェなどの活動が推進会議の議論の中心となっており、本来話すべき地域内、また地域と行政間でどのような課題があるかを話す時間がない。
- j それぞれが望むいろいろな距離感で地域と関われるコミュニティをゴールにすることが重要。
- k 行政のやることは横並びになりやすいため、ぜひそれぞれの地域の違いが活かされるような取組にしてほしい。

(ウ) 地域担当職員について

- l 地域担当職員については、事例は多くある。選任の場合も兼務の場合もあるが、大抵はうまくいっていないことが多い。

カ 新しい基本方針の骨子（予定）

地域づくりの必要性、市の施策（行政として用意するしくみ）、2040年に目指す地域コミュニティの姿など検討している。

(3) 「八王子市地域づくり推進会議モデル試行実施要綱」の改定

推進会議や八王子市地域づくり推進基本方針改定懇談会（以下「懇談会」という。）における議論を踏まえ、推進会議の役割・機能の見直しを行うため改定した。

<主な改定内容>

- ・「地域カルテ」作成→「地域づくり推進計画」策定→年度別の取組実践 という行政計画的なステップが参加者の負担とならないよう、地域の意向を尊重しながら柔軟に対応できる内容とした。
- ・推進会議の設置単位について、中学校区を基本としつつも、地域での取組内容や活動に応じた柔軟な単位設定を可能とし「原則として」という文言を付した。
- ・推進会議は行政が「八王子市地域づくり推進会議モデル試行実施要綱」（以下「実施要綱」という。）で設置している会議体であるため、役割・機能を見直し、推進会議の取組を行政内部の取組として実施可能な「団体間の連携・調整・補完・情報共有」や「行政との連携・調整・相談・検討」と整理した。

(4) 「八王子市地域づくり団体の届出に関する要綱」の策定

推進会議は実施要綱に基づいて市が設置・運営する会議体であり、推進計画に基づく活動を行うにあたり、活動の主となる者（代表者）や所在地等連絡先を記した名刺の作成、銀行口座開設などができない状況である。地域による自立的・主体的な活動も地域づくりの推進に向けて必要不可欠なものであることから、推進会議と連携して活動するための団体を設立したうえで、地域住民等が主体となってイベント・活動等を行うことができるしくみとして新たに策定した。

(5) 先進自治体への視察

視察日	自治体名	人口 (2024年1月1日現在)	地域運営組織に関すること				行政の支援	
			組織名称	設置数・ 設置状況	活動範囲	組織形態	法的性格	支援の内容 (例)
2024年1月31日	三重県 名張市	75,228人	地域づくり組織	15	市民センター (概ね小学校区)	協議組織と実行組織（一体型）	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめづくり地域交付金の交付に関する条例（2003年） ・自治基本条例（2005年） ・地域づくり組織条例（2009年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめづくり地域交付金 ・ゆめづくり協働事業交付金 ・地域マネージャーの配置
2024年2月1日	三重県 鈴鹿市	195,604人	地域づくり協議会	28	小学校区	協議組織と実行組織（一体型）	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり基本条例（2012年） ・地域づくり協議会条例（2019年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援職員 ・地域づくり活動団体設置事業補助金 ・地域づくり一括交付金 ・まちづくり活動補償制度

※詳細については、別紙2参照

3 今後の市の取組に関するスケジュール（基本方針改定の予定等）

